

窓辺

あんどろ
安藤 隆敏

第二のふるさと「豊浜」

磐田市と浜松市の間では、教職員の人事交流があります。私が初めて校長職に就いた時でした。それまでは、旧浜松市内の異動で

したので、私を知る人も、私を知っている人もいないという環境に初めて置かれました。それが豊浜小学校でした。唯一、隣の福田小学校の校長先生だけが知っている方でした。

既に、妻が余命宣告を受けた状態でしたので、きちんと勤め上げることができると不安ばかりでした。

た。しかし、磐田市も磐岡校長会も同僚も、また地域の方々も、浜松からの新参者を温かく迎え入れてくれました。

さらに驚かされたのは、豊浜小の教頭先生ご夫妻が、私の妻とその両親を知っていたことです。お二人は静岡県東部で新規採用され、教頭先生は私の妻の父親が校長をしていた学校で、また、彼の奥様は、妻が新規採用時の学校で一緒でした。しかも、妻の両親が仲人だったのです。

「一期一会」と言われませんが、妻や両親の誠意というものが、この奇跡的な巡り合いにつながったのでしよう。私が全く知らない時間での事実が突如現れ、味方してくれていると心強く感じました。

豊浜は、江戸時代に遭難した唐船を村人総出で助けたり、大正時代に地域だけで図書館をつくったり、勤勉で優れた俳人がいて人々に教えたりというような話が残っている所です。おかげで3年間、「地域に根ざした学校教育」の実践をすることができました。その時の同僚たちと今もつながりが続いていることに感謝です。（浜松科学館館長）